

# 順天堂大学練馬病院外科だより

## 外科専攻医としての1年間（乳腺外科・消化器外科）

### 外科専門医研修 修了要件

- 3年間で手術経験350例以上（うち術者として120例）
- 学術活動(合計20単位)
- 各種学術集会への参加やセミナー受講など

**乳腺外科：** 外来は初診から術後まで、手技は針生検から手術まで、段階を踏んで様々な経験をさせていただきました。また、学会発表や論文作成など学術的な面での成長の機会もいただきました。「自分が担当することで患者さんに不利益があってはならない」という不安もありましたが、細やかな指導体制と気軽に相談ができる環境のおかげで、患者さんファーストな診療ができたのではないかと考えております。



学会発表



**消化器外科：** ハンズオンセミナーなど技術的成長につながる機会を多くいただきました。Wet Labでの腹腔鏡下胆嚢摘出術や腸管吻合など、実際のデバイスを用いたトレーニングでより実践的な学びを得ることができました。手術前には動画での勉強や指導医に質問できる環境があり、万全の体制で手術に臨むことができました。

若手が十分な経験を積める環境は、経験豊富な上級医による手厚い指導体制があってこそです。練馬病院の恵まれた環境に改めて感謝しこの経験を活かし精進してまいります。

乳腺外科・消化器外科：外科専攻医 遠山茉莉

## 小児胆道拡張症に対するロボット支援下手術

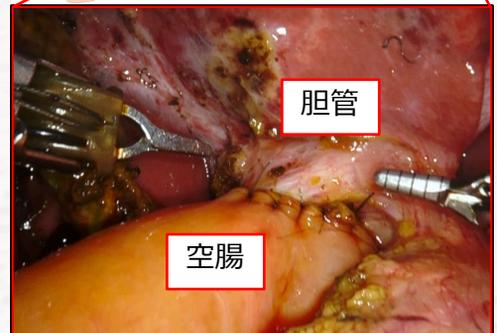
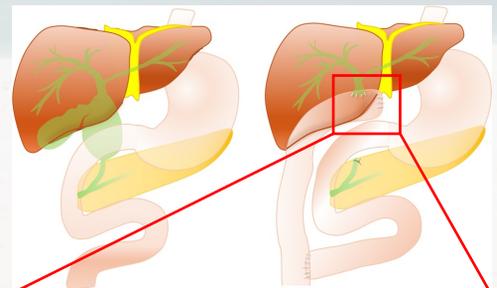
順天堂大学小児外科教室は長年、**小児胆道拡張症(CBD)治療のトップランナー**として臨床、研究を行ってまいりました。

2011年にはCBD鏡視下手術を国内で初めて報告しており、その実績と先行研究により2022年、小児CBDロボット支援下手術も保険収載される事になりました。施設認定基準の厳しさもあり、未だ本術式を施行可能な施設は少ないのですが、当院でも昨年11月に第一例目となるロボット支援下CBD手術を施行しています。

ロボット手術の利点として、解像度の高い術野や鉗子・運針の高い操作性などが挙げられます。これにより従来の腹腔鏡下手術では非常に難易度の高かった胆管-空腸吻合が非常に精密・正確に可能となりました。合併症を最小限とすることで、患者さまにとって非常に安全で有益な選択肢といえます。

当科では今後もロボット支援下手術を積極的に推進していきたいと考えています。該当する患者さまがいらっしゃいましたらいつでもご紹介お待ちしております。

小児外科 准教授 矢崎悠太



胆管空腸吻合：吻合口は5mmですが、ロボット手術では問題なく行うことができます。

